

架空の事無さ

銀色の



私はいつから私だったのだろう

私はいつから此処に居るのだろう



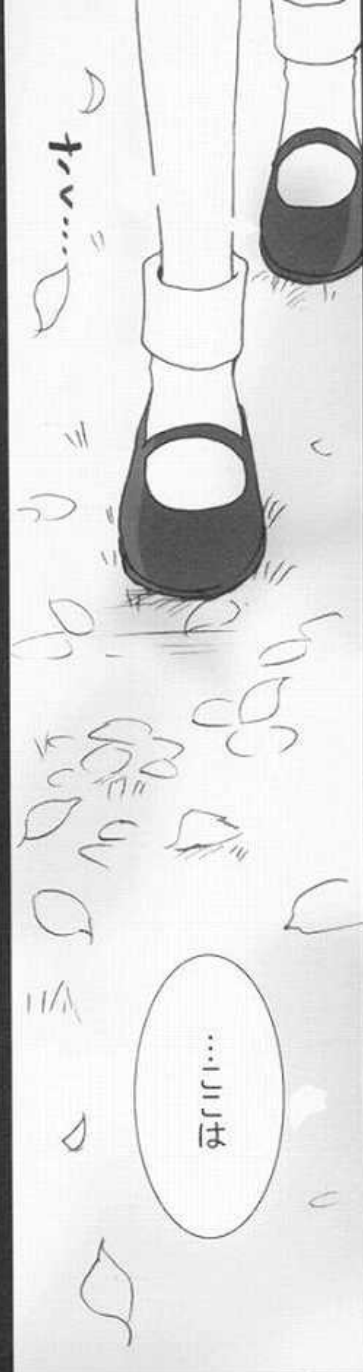


妖夢

一緒に  
来て頂戴



妖夢



…は

あなたは…



架空の事無き、  
銀色の



白玉楼に  
何の用かしら？



はあ  
……



し……ん

……



……

さく……

誰？



妖夢！

妖夢！

起きて

よーむってば！



れ。

ー  
る

。gt  
ん

ズ  
ズ  
ヤ  
ヤ！！



う…ん？

幽々子さま？



ぼん

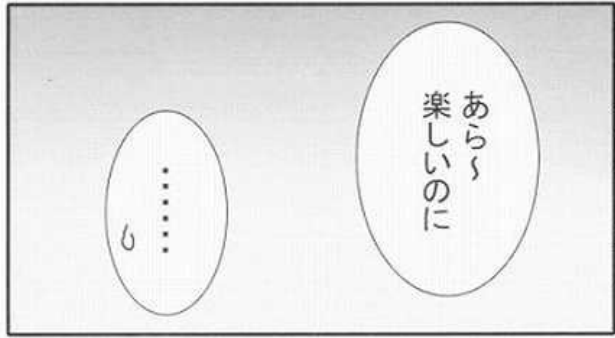


何するんですか!?  
いきなり!



だって  
妖夢ったら  
呼んでもなかなか  
起きないんだもの

だからって  
こんな起こし方  
しないで下さいよ!



あら、  
楽しいのに

……  
ひ



まあ  
いいですが……

それで一体  
何の用です?



ああ  
そうそう

そうだった  
わね

ちよっと  
気になる事が  
あったのよ

ええ

そう...

...そうね  
出掛けるわ

くっ  
くっ

えっ  
ほ

妖夢  
支度して

気になる  
こと...  
ですか...

こんな時間に  
ですか?!





…で

一体どう入  
行かれるのです？

そっか

どうしよう  
かしら

……  
ほ

…って  
決まってる  
ないんですか？!

あら

もちろん  
決まってるわよ

……  
……  
……



ふふふ  
すま

まったく：  
こんな朝早くから  
何の用よ

あんたらは  
幽霊だから  
いいんだろうけど

私はフツの  
人間なんだ  
から

フツのフツ...



あら

幽霊だつて  
寝るわよ  
ちゃんと

わー。

だつたら  
なおさら  
何の用よ！

フ  
フ

そうね

こちら  
何か幻想郷に  
変わったことは  
無いかしら

変わった  
こと？

無いわよ  
あんたらの後には  
特に何も

のんびり毎日  
平和そのもの！

…そう

だったら  
いいの

お邪魔  
したわ

すっ

行きましょ  
妖夢

はい！

もろもろ  
何なのよ！

人をたたき  
起こしてはマ

フヘ

93





そうね

何もないわよ  
こちらには

…で

私のところに  
来たワケね





藍!

はっ!  
はっ!

スツ



ええ



.....



ちよつと  
妖夢と二人で外を  
見張ってて頂戴

はい

お早う  
ですか?



ええ  
外よ

お早う

はあ  
外、ですか...

.....

また  
アハアアア...




幽々子さま…？

はたん…

……







あなたが  
あの桜を咲かせ  
ようとしてから

幽明の境界が  
曖昧になってる  
みたいね

.....

あの子は  
感受性が強い分

そういった隙間に  
付け入れられやすい  
のね

...まあ

私にとっては  
どうでもいい事  
なんだけれど





…そうね

庭師が居なくなると  
お庭が荒れて  
ちよっと困るわね



あの子が  
居ないと

あなたが  
困るものね



……

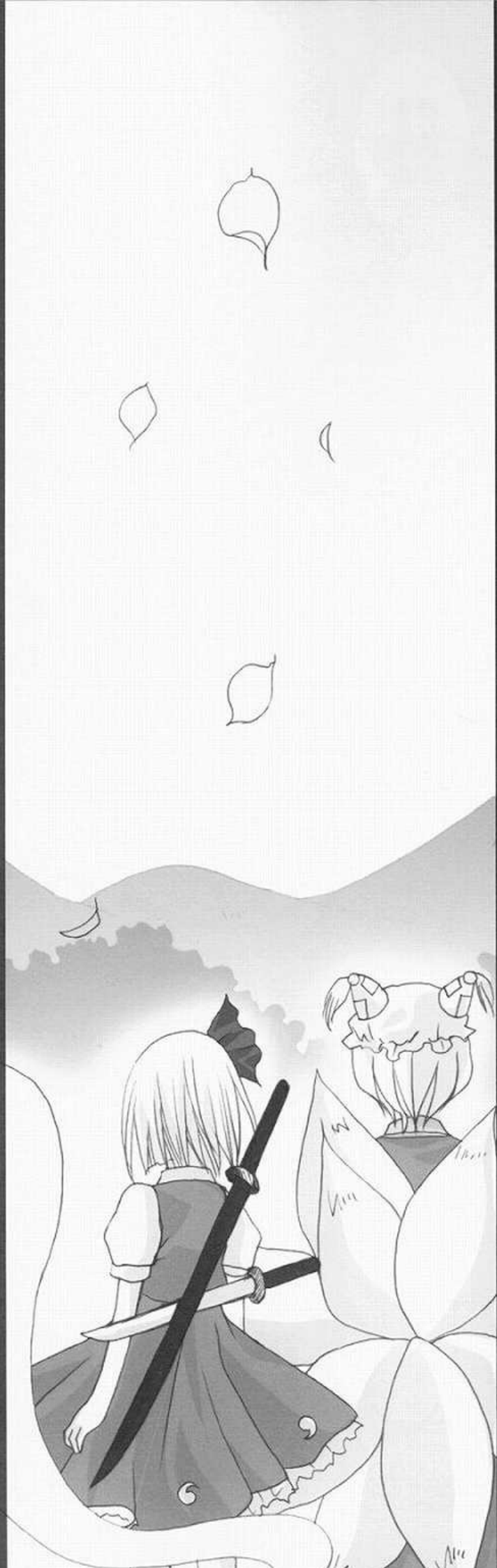


それでも  
ないわよ



ひいっ  
過保護ねえ

幽々子



まあ  
いいわ

そんな貴女に  
免じて

今回は  
手を貸して  
あげましょ













どきどき…

もちろん  
幽々子さまを  
お守りする為ですが…



そう

だったら  
見失わない  
ことよ

あなたの  
役目を



…？

何があっても  
幽々子の傍に  
居る



…はい

ス  
ス  
ス

カキキ

それが  
あなたの役目よ

この剣に  
誓って!







待て下さいな  
……

……

私もまだまだ  
甘いわねえ





幽明の境界が  
揺らいでいる…



生と死が

彼の世と此の世が

全てが曖昧になる……







幽々子さま!



よかったわ

来てくれた  
のね



そりゃ  
幽々子さまが  
お呼びになれば

はあ

私はどこへでも  
参りますが



じじい  
み



…そう

だったら  
一緒に  
来て頂戴



?

…どちらへ  
です？







——  
妖夢!!



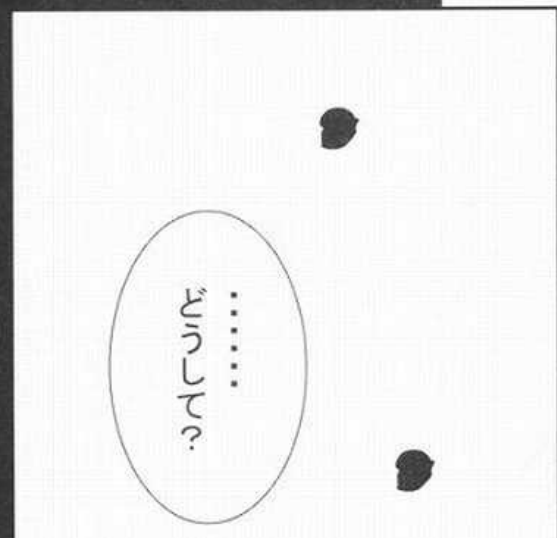
幽夜子さま……？

どうしたの  
妖夢

……  
申し訳  
ありません

私は  
あなたとは  
行けない

……  
どうして……





それは

私の役目が

幽々子さまのお傍に居ることだからです



…私も

幽々子なのにな？



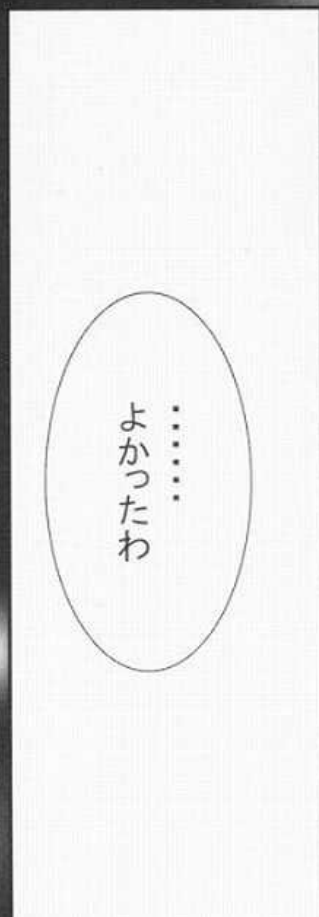


冥界の  
幽々子さま  
なのです

ですが  
私が傍に  
居るべき人は



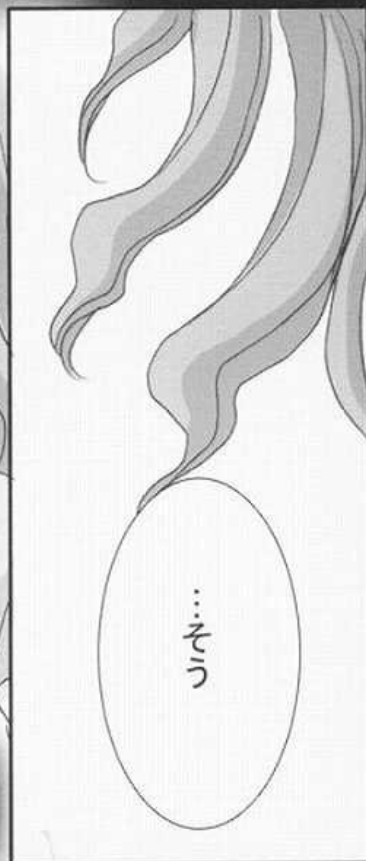
はい




……  
よかったわ




だから幽々子<sup>わたし</sup>は  
あなたを  
選んだのね



……  
そう



幽々子に  
あなたが  
居てくれて



生と死の境界が――



ひどく曖昧で

幽々子さま…

私はその見せる





わかりますよ  
それぐらい！

……まじまじと  
かくまう……！

そんなの当てられたら  
起きる前に  
死にますって！

死なないわよ  
幽霊だもの

幽々子さまは  
そうでしょうが

私は半分は  
人間なんです

死ぬ時は  
死ぬですよ！

……  
そんなことは  
知ってるわ

だいたい  
妖夢は  
ひどいわ

さっきも


私を  
置いて行くこと  
したじゃない








妖夢



…はい



私が居ないとここで  
勝手に死んでは  
だめよ



…だって

あなたは

私が  
殺すんだから



はじめまして。もしくはこんにちは。  
MILK BARのシロガネ ヒナと申します。  
この度はこの本をお手にとって頂きありがとうございました。  
みっしりとまんがのみの構成で、トークのページがここだけという余裕の無い本の作りですみません…。  
でも東方はぜひ語りたかったのでこんな終わりのページに苦手なトークでもすることにします。

東方。  
とにかく音楽も世界観もキャラも好きすぎて自分の魂の一部が暴走してしまいそうです。  
(暴走しての結果がこの本…)  
中でも特に音楽の方向性が好きで、この原稿中もずっとずっと「蓮台野夜行」を中心に聞いてました。  
ゲーム中でも特に好きだった「東方妖々夢」と「少女幻葬」が入ってるので。

そして、この本を見て下さるとわかると思うのですが、冥界主従が好きです。  
ぶっちゃけ妖夢が特に好きで、私が幽々子になりたいぐらいです。  
あと八雲一家もすき。特に藍さま。(笑) テンコいいです!  
冥界組・八雲一家以外では、咲夜さんとかアリスとか。  
ザコキャラだとリグルとか。  
あ。けーねたんも結構すきかも。  
というか東方は好きなキャラが多すぎて…。  
特に好きなキャラは別格ですが、それ以外もみんな一定以上の愛!みたいな感じです。

そしてこの本について。  
言い訳はしたくないのですが色々微妙なところが多すぎて謝罪だけはしておこうと思います。  
(特にわかりやすい部分では幽々子の服と妖夢の剣が謝罪対象…。  
服の柄があったりなかったり剣の挿してる方向がまちまちなのです。  
あとで気付いたけど直す余裕がありませんでした…すみません)  
これに懲りて次の東方本では克服します。

とりあえずこれからも東方はちょこちょこがっしり描いていきたいと思いますので  
どこかで見た時にはよろしくです。

ではでは失礼します。

シロガネ ヒナ

**HINA SHIROGANE**

**PRESENTS BY  
MILK BAR  
20050619**

**PRINTING BY  
nekonoshippo sama**

**CONTACT  
"MAIL" milkbar@gb.holy.jp  
"URL" http://milkbar.holy.jp/**





Touhou Project Book No.01

PRESENTS BY MILK BAR  
HINA SHIROGANE  
20050619

